



今を生きる

私は生まれ育った町で結婚し、3人の子どもにも恵まれ、自然に囲まれながら穏やかに暮らしてきました。

ところが、昨年「夫の病氣」という大きな出来事に見舞われました。医師から病氣について告げられた時のことは今でもはつきりと覚えています。弱かった私はそのことを受け止められず落ち込んで、周りの人や夫自身にもずいぶん迷惑と心配をかけてしまいました。



上中町
多喜田真澄さん

しかし最近になり、ようやく前を向くことができるとなってきました。落ち込む私を笑顔にしてくれたのは家族でした。13歳の長男は何があっても明るく前向きで、10歳の次男は優しく癒やしてくれ、8歳の長女は幼いながら

気遣うようにたくさん話をしてくれました。両親、祖父母はそばにいて支えてくれました。そして夫ともたくさん話をし、お互いの大切さについて何度も何度も気づかされました。

「落ち込んでいても何も変わらない。子どもたちのため、家族のため強くなろう。元気なでいよう」と思うようになってたのです。今、私にとって一日一日が大切なかけがえのない時間です。

正直に言う
と、今でも後ろ向きになつてしまうことは何度もありますが、そんな時は私の大好きな人の言葉、好きな人の言葉、

葉、「今を生きる」 since the day」を思い出すようにしています。この言葉を胸に、前を見ながら進んでいこうと思います。

過去から学び、今を生き、未来に希望を持って生きていこうと思います。

次は、羽ノ浦町の福井千賀子さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

佳作

吉形 和恵

夕立の置き忘れしや虹の橋切なき色と十六の夏

佳作

森 ゆき子

いただきし秋ナスの色艶めきて娶らぬ息子勇んで食す

佳作

黒部 君代

夕焼けに夏の終りの気配して秋の畑の種を選びゆく

佳作

棚野 久子

「欠点も愛しく思う」一周忌迎えて女はつぶやいて泣く

佳作

長尾 久子

彼岸花二カ月前に逝きし甥墓への道を照らすごとくに

佳作

吉永賀代子

氷入れ梅酒注げばパチパチと拒絶しながら己を溶かす

佳作

神原 常経

巡り来る八月父の酔ひ給ひさびさび唄う兵の日の歌

俳句

阿南市俳句連合会選

神原 鹿山

爪立ちて大吉結ぶ初詣

数の子や我に子一人嫁ぎゆき
谷脇 春代

透析に耐え寒に耐え生きんとす
河野 柳史

火の用心深き闇へと遠ざかる
神野 島女

千代の春申の諺また良しと
荻原 朝子

弾初は東京国立小劇場
陶久 晴義

飛梅のはやも咲きしと天満宮
佐野 極童

若菜つむ父母へ夕餉の魚鼓を撞く
奥田 壮老

山住い氷柱の下がる寛水
松村みどり

初みくじ雨のあたならぬ樹に結びぬ
岡久 玲子

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

十年の先を見据えて樹を植える
佐野 智子

縫うよりも手間ひま掛かる糸通し
原 公美子

靴脱いだ時から立場逆になる
野村 敏子

良い人を演じストレス抱え込む
持木 寿栄

法螺吹きも愛嬌として憎めない
野口 正章